

透析患者の自己管理に関する文献検討から看護実践を考える

廣尾 友架¹⁾・壽賀 光璃²⁾・藤野 文代³⁾

キーワード：透析患者の看護、自己管理、文献研究

I. はじめに

今日、腎不全患者の中でも透析導入される患者は増加の一途をたどり、2011年のわが国の透析患者は304,592人であると報告されている（日本透析医学会）¹⁾。透析療法の導入によって、患者は日常生活での制限やライフスタイルの変更を余儀なくされるが、透析導入以前の生活習慣から透析治療に望ましい生活習慣に変容させることは、非常に難しいといえる^{2) 3)}。透析療法は、患者にとって一生継続していかなければならないため、看護師には、患者自身のセルフケアに対する考えを尊重しつつ、患者が長期にわたる健康管理、セルフケア能力を獲得していく支援を行うという役割があると考えられる。本庄⁴⁾が「セルフケア能力を高めて維持することは、長期にわたり健康管理を行う慢性病者にとって重要とされる」と述べているように、透析患者においても同様である。透析患者の看護では、患者が社会生活においても適切な療養生活を継続できるように関わり、どのように自己管理を認識し、意識して行っているか、さらにそれらの自己管理の要因がどのように互いに関連しているかを把握することが重要である。そこで、筆者らは、人工透析療法（血液・腹膜透析を含む）を受けている患者の自己管理に関する看護研究論文を分析し、看護実践への示唆を得ることを目的として本研究に取り組んだ。

II. 研究方法

医学中央雑誌web版を用いて、過去14年間（1997年から2011年）に発表された文献のうち、「成人」and「人工透析」and「自己管理」and「原著」キーワードにより抽出された140件をさらに①人工透析を受けている患者の自己管理に当てはまるもの、②研究目的に対する結

果と結論が明確に述べられているもの、③看護師が行ったものに絞り込み13件の文献を分析の対象とした。

分析対象とした文献を、1. 雑誌の種類別件数 2. 年度別件数 3. 研究方法別件数 4. 対象人数別件数 5. 著者人数別件数 6. 調査期間別件数 7. 研究目的別件数 8. 使用尺度別件数 9. 透析患者の自己管理に影響を及ぼす要因について、内容を検討した。

III. 結果

- 雑誌の種類別件数は、学会誌が6件、研究会誌が5件、大学紀要が2件であった。
- 年度別件数は、2008年が3件、2005年、2006年、2011年の研究は2件、2000年、2003年、2010年、2012年の研究は1件であった。
- 研究方法別件数は、量的研究が5件、質的研究が6件、混合研究が2件であった。
- 対象人数別件数のうち量的研究における対象人数は1～100人が2件、101～200人が1件、201～300人が1件、301～1500人が1件という結果であった。質的研究における対象人数は、1～5人が2件、6～10人が1件、11～15人が1件、16～20人が1件、21～85人が1件であった。混合研究の対象人数は、1～30人が1件、31～40人が1件であった。
- 著者人数別件数は、3人の共同研究が4件、単著と2人の共同研究が各3件、4人・5人・7人の共同研究が各1件であった。
- 調査期間別件数は、2ヶ月未満の研究が6件と最も多く、4～7ヶ月未満の研究が3件であった。
- 研究目的別件数は、セルフケアに影響を及ぼす要因を明らかにするための研究が3件、セルフケアとの関連を明らかにするための研究が2件、透析患者にそった看護の方向性を明らかにするための研究が4件、透析療法を行っている患者のライフスタイルを明らかにするための研究が2件、透析療法を受けている患者の心理状態を明らかにするための研究が2件であった。
- 使用尺度別件数は、セルフケア能力の下位尺度を使

1) Yuka Hiroo
神戸大学医学部附属病院

2) Hikari Suga
大阪府立急性期・総合医療センター

3) Fumiyo Fujino
関西福祉大学看護学部

表 1 分析対象文献

発行年	雑誌名	著者	タイトル	種類	研究目的	研究対象
2000	富山医科薬科大学看護学会誌 第3号 97～110	新谷恵子 荒木節子 高間静子	人工透析患者のセルフケア 度に影響する要因の追及に 関する研究	量的研究	人工透析治療を受ける患者のセルフケア度と その影響要因を明らかにする	透析治療専門の2ヶ所の病院に通院す る成人患者120名
2003	透析会誌 36巻6号p1215～1221	中原宣実 森田夏実 内田雅子	看護師からみた日本の透析 医療と看護の方向性	量的研究	透析医療に従事している看護師を対象に調査 を行い、看護の視点からその方向性を明らか ににする。	透析施設の回答159施設、看護師個人調 査1511名
2005	臨床透析 21巻5号p635～641	北澤伯子	透析療法を受けている患者 の疼痛受容に関する一考察 －発達課題からの分析－	質的研究	透析療法を受けている患者の心理発達と疾病 受容と関連を発達課題から明らかにする。	人工透析療法導入となった患者で疾病 受容ができない男性2症例と、比較対 照として自己管理のよい男性1症例
2005	日本赤十字九州国際看護大学 Intramural Research Report 3号p26～34	二重作清子 大倉尚子 佐野彰子 古田徳子	血液透析看護における患者 の認識	量的研究	透析患者にそつた看護を提供するための今後 の方向性について示唆を得ること。	20歳以上の血液透析患者54名
2006	看護研究 39巻1号55～65	三村洋美 人見裕江 中平みわ 國方弘子他	腹膜透析療養者のセルフケ ア能力に影響を及ぼす要因 に関する研究	量的研究	質問紙法を用い、85名の腹膜透析療養者のセ ルフケア能力に影響を及ぼす因子を明らか にする	85名の腹膜透析療養者
2006	日本腎不全看護学会誌 第8巻2号58～64	鈴木美津枝 阿部暢子 奥田生久恵 立花絵里 稲垣美智子 他	血液透析治療中患者の生活 の様相に関する研究	質的研究	辛さ、自己コントロール、ソーシャルサポー トの3つの視点から血液透析患者の生活を明 らかにする	透析ベッド30床をもつ血液浄化部外来 通院患者で、透析医療に従事している 看護師が選択し、研究の主旨が説明さ れたのち同意が得られた14名
2008	山梨県立大学看護学部紀要 10巻p13～26	高岸弘美	血液透析患者の自己管理に 影響を及ぼす要因とそれら の関連性に関する研究	量的研究	血液透析患者の自己管理に影響を及ぼす要因 の特徴とそれらの関連性を明らかにする。	外来通院をしている20歳以上の患者50 名
2008	日本看護科学会誌 28巻4号p37～45	武内奈緒子 村嶋幸代	血液透析患者の特徴・信念 およびセルフケアとの関連	量的研究	透析患者の病気に関する考え方をBelief：健 康統制所在（JHLC）および不合理な信念 （JIBT）とし、同時にConsequenceをセルフ ケアとして測定し、その関連を明らかにする。	血液透析導入後4ヶ月以上、20歳以上 の228名
2008	聖路加看護学会誌 12巻2号p1～13	森田夏実	血液透析療法を受けながら 生活している慢性腎不全患 者“気持ち”の構造	質的研究	慢性腎不全患者が血液透析療法を受けながら 生活している中で抱く“気持ち”の構造を明 らかにする。	透析導入1ヶ月以降の回復安定期以降 の時期にある、血液透析患者19名
2010	インターナショナルNursing Care Research 9巻1号p79～85	丹下佳子 石井俊行	外来血液透析患者のセルフ ケア能力の実態－性別によ る違いから2つの尺度につ いて考察する－	混合研究	外来血液透析患者のセルフケア能力から2尺 度【体調の調節、有効な支援の獲得】を性別 から考察し、どのような看護介入が有効であ るかを検討する。	外来通院している透析患者29名（男性 19名、女性10名）
2011	共創福祉 第6巻第1号19～26	原元子 一ノ山隆司	血液透析患者の血液アータ に基づく食事・水分・服薬 行動の分析に関する研究	混合研究	臨床現場における血液透析患者自身の認識と 行動の関係を明らかにする	A病院の血液透析患者で、自記式質問紙 に記入可能な患者32名
2011	富山大学看護学会誌 第10巻1号29～36	四十竹美千代 若林理恵子 八塚美樹	長期透析患者の心理状態か ら自己管理への援助に関す る研究	質的研究	長期透析患者がどのような心理状態にあるの かを振り返り、彼らへの看護支援の示唆を得 ることを目的とする	透析歴13年以上の長期透析患者1名
2012	香川大学看護学雑誌 第16巻第1号39～48	宮宇地秀代 名越民江 南妙子	壮年期腹膜透析療養者のラ イフスタイルの明確化に関 する研究	質的研究	壮年期腹膜透析療養者のライフスタイルを明 らかにする	B病院腹膜透析外来に通院中の腹膜透析 を2年以上継続している30歳以上60歳 未満の療養者6名

用した研究が2件、独自の尺度を使用した研究が2件、他各1件であった。

9. 透析患者の自己管理に影響を及ぼす要因については、量的研究・質的研究をまとめて述べると、「性別、原疾患、透析期間、心理サポートの有無、ソーシャルサポートの有無、家族の働きかけ、専門職の働きかけ、家族からのセルフケア支援、コミュニケーション能力、家族との連携、療養生活におけるマネジメント、前向きな気持ち、生きるための希望等々」であった。

IV. 考察

ここでは結果の中で、特に透析患者の自己管理に影響を及ぼす要因について考察する。

新谷ら（表1-1）が高血圧症や糖尿病など自己管理を要する疾患を抱えている人の方がそうでない人よりもセルフケア実践への認識が有意に高かったと述べていた。筆者らも原疾患の管理が透析患者の自己管理にも影響を及ぼしていると推察する。

透析時期と自己管理について、高岸は（表1-7）透析導入時期の患者より、安定した透析生活を送っている時期の患者は自己管理が良好であったと報告していた。これは繰り返し学習することにより自己管理の行動が習得されたのではないかと推測する。長期の透析が自己管理に影響を及ぼしたと考えられる。さらに、高岸は（表1-7）厳しい食事管理を続けるためには、セルフエフィカシーを高く持ち続けることが困難な状況を乗りきるために必要であると報告していた。筆者らも高いセルフエフィカシーは自己管理に影響を及ぼすと考える。

竹内ら（表1-8）は自己管理と関連するものとして、家族や専門職の働きかけを報告していた。筆者らも家族等の協力者がいることで自己管理行動が維持されると考える。

森田は（表1-9）透析患者の気持ちは「私らしさ」を維持するために感覚的経験とともに常に変化しているという特徴があると報告していた。また、四十竹ら（表1-12）は透析患者の心理状態は希望で支えられていると述べていた。これらの論文から「自己管理」に影響するものや関係するものについて知見を得た。筆者らはこれらを参考に、透析患者の気持ちの変化により添い、自己管理を支援する看護を実践したいと考える。

V. 結論

13編の看護研究論文を分析した結果、以下の結論を得た。

- 1) 透析患者の自己管理に影響を及ぼす要因は、性別・原疾患・透析期間・セルフエフィカシー・ソーシャルサポートであった。
- 2) 透析患者の自己管理と関連することは、家族や専門職からの働きかけ・発達段階であった。
- 3) 透析患者は、透析継続のために行動に対する意味づけを行い、行動の獲得を行っていた。
- 4) 透析患者は、自分の心理状態の変化を感じながらも、治療を受容し、自己管理行動を行っていた。
- 5) 以上のことから、透析患者における自己管理への看護支援として、筆者らは個々の背景や自己管理に対する認識を把握し、透析を継続していけるように、正しい知識やサービスを提供し、見守りながら関わり続けていくことが必要であるとの結論を得た。

VI. おわりに

本研究から、透析患者の自己管理に関する看護研究の傾向が明らかになった。しかし、自己管理について全て網羅できたかということに関しては評価することは難しい。また、主観的判断が含まれていることは否定できない。今後、各論文の研究結果を活用した看護実践を行いながら透析患者の自己管理に関する研究を継続していきたいと考える。

尚、本報告は平成24年度に提出した関西福祉大学卒業研究論文の一部である。

引用文献

- 1) 日本透析医学会統計調査委員会：我が国の慢性透析療法の現状，日本透析医学会，2011.
1 <http://docs.jsdt.or.jp/overview/>
- 2) 山添千春：透析患者の身体的、精神的ストレスの実態調査，日本透析会誌，31巻，551，1998.
- 3) 志自岐康子，中西睦子：透析患者の生活適応に関する研究，日本赤十字看護大学紀要，6巻，30-40，1992.
- 4) 本庄恵子：慢性病者のセルフケア能力を査定する質問紙の改定，日本看護科学会誌，21巻，129-139，2001.